



宮若市【福岡県】 文化財保護基本計画

■ 策定年月：平成21年12月 ■ 人口：28,244人 ■ 面積：140km²
■ 担当課：宮若市教育部社会教育課（平成30年3月現在）



宮若市は、文化財に対する市民意識を把握するため、文化財の基礎調査としてアンケートを実施。その結果を総合的に勘案し、市内の文化財を「祖先から受け継がれ、守り残すべき郷土の宝として、次世代へ伝えるべき大切なもの」と位置づけ、市民の協力や関連部局との連携のもと、文化財の総合的かつ計画的な保護を推進し、宮若市民の豊かな心を育む宮若固有の風景の保全・創出を目指している。

5 歴史文化を表す つのキーワード

装飾古墳、中世山城跡、近世居館跡
農村舞台、近代化遺産

課題

- ・文化財を知る・学ぶ取組の普及
- ・文化財を守り生かす取組の推進

保存活用方針

- ・市民参加型の文化財の調査・公開
に求められる仕組み、体制づくりに
努め、文化財を総合的に把握、
可能な限り公開する

保存活用のための取り組み

市民参加型の調査・公開方針

市民とともに文化財の調査や公開に取り組むことによって、文化財を知ることや文化財から学ぶことの意義をより多くの市民と共有したいと考えている。市民参加型の文化財調査・公開の推進に向けて、それぞれ求められる取り組みを実現する仕組みを構築する。



文化財を守り・生かす取組の推進

この基本計画では宮若市の歴史や文化等の関連性から捉える関連文化財として、まず6つのストーリーを取りあげた。今後も市民参加型の調査を進め、拾い上げた文化財を総合的に把握することにより、あらたな関連文化財を追加し、文化財を守り・生かす取組に繋げる。

文化財としての意義の明確化

関連文化財の構成要素として取り上げた文化財は、十分にその価値が明らかになったものばかりではない。より多くの市民にわかりやすく文化財の意義を理解してもらうために、明らかになった文化財の関連性を市民に周知するとともに、今後も調査を進める。

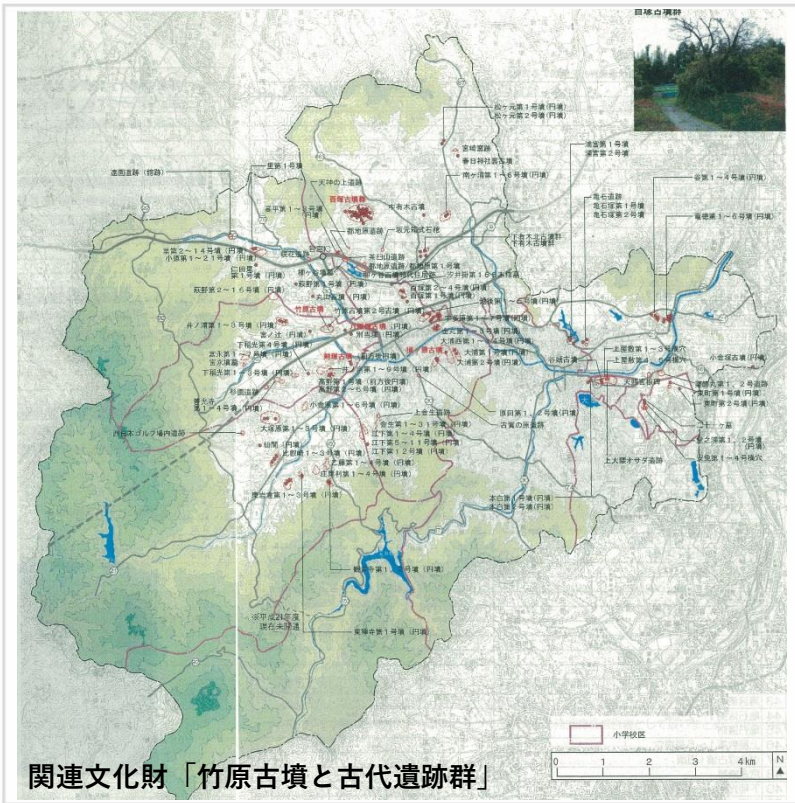
市民の協力や関連部局との連携による保存活用の推進

文化財には、維持管理のほか、修理、復旧、修復及び収蔵等の保全整備、案内板設置や周辺整備といった環境整備が求められる。関係者との保存活用方針の事前の共有が重要であり、市民との協力、関係部局との連携により、関連文化財の保存活用方針を定める。





関連文化財



関連文化財「竹原古墳と古代遺跡群」

宮若市は、福岡県北部の内陸を流れる遠賀川の支流、犬鳴川流域に位置し、豊かな自然と国指定史跡竹原古墳に代表される古墳や中世山城が多くあり、仏教普及の歴史を物語る仏像、農村文化を伝える野舞台、幕末の歴史を伝える犬鳴御別館、炭坑の歴史を物語るアルコ22号など多種多様な文化財が重層的に構成している。関連文化財の第一次として、6つのストーリーをとりあげている。

ストーリー

- ① 「宮若の峰々」 重層な緑が覆う山並
- ② 「竹原古墳と古代遺跡群」
- ③ 「信仰を集めた古社寺と神仏」
- ④ 「中世山城跡と近世居館跡」
- ⑤ 「伝統的な農村文化と農業技術」
- ⑥ 「近代化遺産」 石炭と銅山



策定後の成果（見込まれる効果）

① 竹原古墳保存整備事業

文化財保護基本計画に基づき、関連文化財「竹原古墳と古代遺跡群」の構成要素である国指定史跡竹原古墳の保存整備については、墳丘及び石室の保存を第一義として、平成28年度に保存整備計画の策定が終了。平成29年度から平成31年度までに墳丘保護盛土工事、観察施設の改修工事、外構工事、展示施設の新設の保存整備工事を実施する。



② 文化財収蔵施設整備事業

宮若市内には、過去の歴史・文化をとどめ、語る有形・無形の文化財が多く所在し、発掘調査により発見された多くの出土品も存在する。文化財保護基本計画を策定したことで、これらの文化財を展示・収蔵する施設の基本計画の策定をすすめていく。



③ 近代化遺産の保存

宮若市石炭記念館には、明治時代以降の日本の近代化に貢献した石炭産業で栄えた当時の採掘用工具、資料、当時の写真などが収蔵され、充填用砂運搬蒸気機関車「アルコ22号」も展示されている。関連文化財「近代化遺産」を設定したことにより、若宮の銅山と共に本市の近代化産業の発展史として将来への継承が期待できる。

